



**記者
会見**

直腸がん手術もダ・ヴィンチで！ 島根県初！ロボット支援下直腸がん手術を導入しました！

本年1月から、島根大学医学部附属病院においてもロボット支援下直腸がん手術の導入を開始しました。5月までに4例の手術を行い、みなさんが良好な経過をたどっています。より多くの患者さんに、このロボット支援下直腸がん手術の利点を知っていただくため、5月29日に記者会見を行いました。

現在、日本では、大腸がんが部位別がん罹患率の2位となっており、最も身近な疾病の一つです。大腸がんの治療は手術が中心で、日々進歩していますが、直腸がんに対する手術は、術後の排尿障害や性機能障害が起こりやすいことが問題で、まだまだ超えなければならない壁がたくさんあるのが現状です。

当院の消化器・総合外科大腸疾患外科グループは、患者さんに負担の少ない手術（低侵襲手術）の提供を目指し、腹腔鏡を用いた手術を積極的に行い、良好な治療成績をおさめてきました。

腹腔鏡下直腸切除・切断術は昨年度から保険適用となりましたが、ロボット支援下で行うためには直腸がん日本内視鏡外科学会技術認定の取得が必要で、施行できる施設が限られていました。当院ではすでに、2017年に2名が上記認定医として認められています。ロボット支援下手術の開始により、高精度な手術が行えるようになり、さらなる治療成績の向上と患者さんの生活の質(QOL)の確保が期待されます。

この会見で、山本徹助教は、「安全でより繊細な直腸がん手術を多くの患者さんに提供できるよう、チーム一丸となって研鑽してまいります」と語りました。

島根大学医学部における研修会・講演会・セミナー開催情報

7月15日～8月14日

対象者： **一般** 一般市民 **医療** 医療関係者 **本学** 本学教職員・学生

開催日	開催名	場所(★印 学外開催)	対象者	主催者
7/15(月) 9:30～11:30	2019年度 島根県がんピアサポーター相談会	外来中央診療棟3階 がん患者・家族サポートセンター	一般	島根大学医学部附属病院
7/20(土) 10:20～13:00	第28回島根県がん登録研修会 「口腔がん、喉頭がん、咽頭がんってどんな病気？」 松江赤十字病院 耳鼻咽喉・頭頸部 外科部長 伊藤 和行 先生	★松江赤十字病院 本館6F 講堂	医療	島根県がん診療ネットワーク協議会 がん登録部実務担当者研究会 松江赤十字病院 国立病院機構松江医療センター 島根県健康福祉部健康推進課 島根大学医学部附属病院
7/21(日) 13:30～15:30	浜田市民フォーラム「島根大学病院の最新治療」2019夏 島根大学医学部附属病院 脳神経外科 教授 秋山 恭彦 島根大学医学部附属病院 循環器内科 講師 遠藤 昭博 島根大学医学部附属病院 呼吸器・化学療法内科 教授 磯部 威	★浜田市 いわみーる 4階 401研修室	一般	島根大学医学部附属病院
7/23(火) 18:30～20:00	第3回 医学系研究基本講習 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智/助教 富井 裕子	臨床講義棟2階 臨床大講堂	本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
7/25(木) 18:30～19:30	2019年度 臨床研究・統計セミナー 「研究計画書の作成と関連資料の準備」 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 准教授 鈴木 律朗	講義棟3階 L3講義室	医療 本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
7/26(金) 15:00～16:00	2019年度 第2回 誰でも参加できる糖尿病教室 「元気に歩き続けるための足のお手入れ」 島根大学医学部附属病院 看護師 佐仲 みどり 「お口から支える健康寿命～糖尿病とオーラルフレイルの関係について～」 島根大学医学部附属病院 歯科口腔外科 助教 松田 悠平	ゼブラ棟2階 だんだん	一般	島根大学医学部附属病院 糖尿病ケアサポートチーム
7/31(水) 17:30～18:30	2019年度 第5回 栄養セミナー 「経腸栄養・経口栄養のプランニングとモニタリング」 島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター 准教授 矢野 彰三	島根大学医学部附属病院2階 クリニカルスキルアップセンター	医療	島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター
8/1(木) 14:00～15:30	第4回 医学系研究基本講習 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智/助教 富井 裕子	臨床講義棟2階 臨床大講堂	本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
8/6(火) 18:30～20:00	第5回 医学系研究基本講習 島根大学医学部附属病院 臨床研究センター 教授 大野 智/助教 富井 裕子	臨床講義棟2階 臨床大講堂	本学	島根大学医学部附属病院 臨床研究センター
8/7(水) 17:30～18:30	2019年度 第6回 栄養セミナー 「栄養剤・栄養剤・食品の選択・適正使用法の指導」 島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター 准教授 矢野 彰三	島根大学医学部附属病院2階 クリニカルスキルアップセンター	医療	島根大学医学部附属病院 栄養サポートセンター

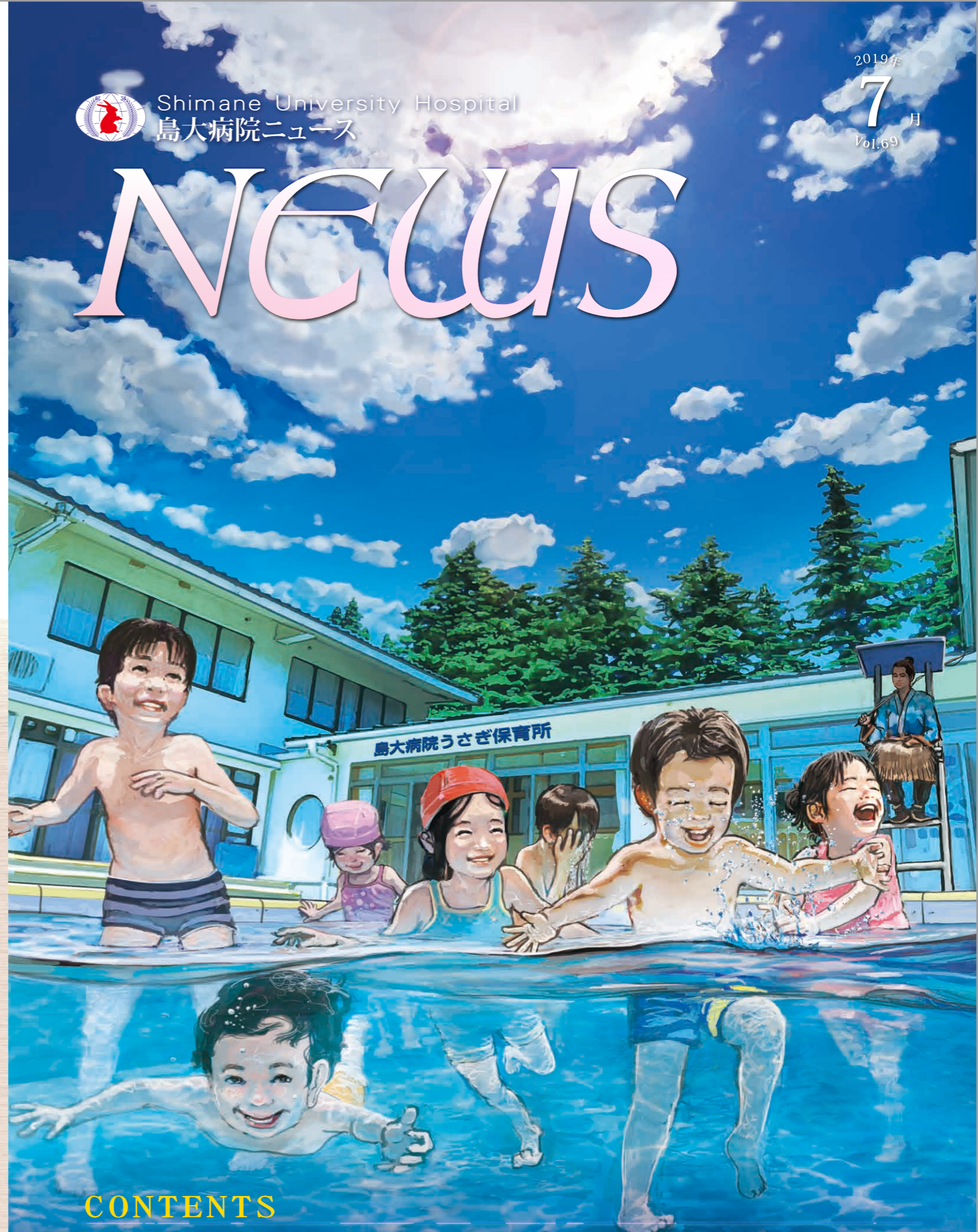
詳細については、医学部・附属病院ホームページ【研修会・講演会・セミナー】をご覧ください。



Shimane University Hospital
島大病院ニュース

2019年
7月
Vol.69

NEWS



CONTENTS

- ・内科学講座(内科学第一) 教授就任のご挨拶
- ・2019年度病院医学教育研究助成の採択状況について
- ・【記者会見】直腸がん手術もダ・ヴィンチで！ 島根県初！ロボット支援下直腸がん手術を導入しました！
- ・島根大学医学部における研修会・セミナー開催情報





内科学講座(内科学第一) 教授就任のご挨拶

内科学講座(内科学第一) 教授 かなさき けいぞう
金崎 啓造

7月から内科学講座(内科学第一)を担当させていただいております、金崎啓造と申します。私は1996年に滋賀医科大学卒業、研修・大学院を経てハーバード大学留学後の2010年からは金沢医科大学糖尿病・内分泌内科学にて古家大祐教授のもと診療・教育・研究に携わってまいりました。

私は糖尿病合併症、特に腎症制御を専門にしております。世界で約4億3千万人が糖尿病に罹患し、2045年には6億人以上にも達すると考えられています。その対策は医学的・社会的に重要課題ですが、我々は魔法の薬や奇跡の治療法を用いることができるわけではなく、地道な診療努力と優れた医療人の育成が欠かせません。また糖尿病対策には地域の先生や行政と一体となったevidenceに基づいた取り組みが必須であり実践します。その他内分泌代謝疾患は患者さんの健康を知らないうちに損ねていることが多く、個々の症例に適切な診断・治療介入を行います。

今後の研究テーマとして、糖尿病腎症に関する研究はもちろん、留学時代から取り組んでいる妊娠高血圧腎症の研究も継続していきます。また糖尿病の死因第一位である癌の研究、特に高血糖や抗糖尿病薬が癌の生物学的特徴にもたらす意義も極めます。さらに、杉本利嗣名誉教授が築きあげられてきた骨代謝の研究はさらに深淵に迫り世界をリードしていきたいと思っております。

若い先生方・学生諸君とともに多彩な事にチャレンジしていきたいと思っております。気軽に声をかけてください。よろしくお祈りいたします。



2019年度 病院医学教育研究助成の採択状況について

病院医学教育センター センター長 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

病院医学教育研究助成は全国国立大学ではめずらしい病院職員に対する研究助成です。病院では各部署、部門においてさまざまな業務が日常的に行われています。それを研究対象に医師以外の職種が研究することを奨励しており、そのような研究に助成をしています。医学研究は、とかく医師が中心になりがちですが、当院ではたくさんの医療スタッフが研究申請することからも当院の医療従事者の資質の高さを感じる取ることができます。

さて、先日、2019年度病院医学教育研究助成の選考が行われました。下表にありますように、今年度は研究7件(12件中、採択率58%、助成額計2,479千円)、研修68件(122件中、採択率56%、助成額13,001千円)が採択されました。また、研修のうち、採択されなかった案件については、活性化を促進するため、各部署からの不採択の申請件数に応じて部門別裁量経費として助成額1,001千円を配分し、助成額の総額は16,481千円を配分致しました。さらに、もう一つの取組みとして、2019年度の優秀研究題目5題には、研究責任者に対し10,000ポイントのインセンティブが付与されることが専門部会で決まりました。このような取組みにより、当院の病院医学教育の質がさらに向上することを願っています。

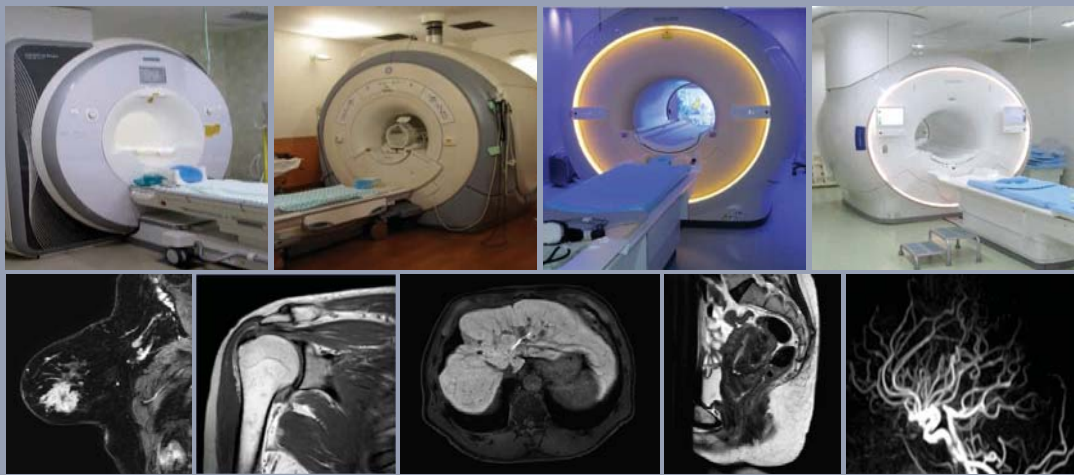
2019年度 病院医学教育研究助成採択一覧

研究課題	研究組織の名称	研究実施責任者
島根県下医療安全ネットワークの構築と質の向上に関する研究	医療安全管理部	遠藤 進一
大学病院入院患者および介護施設ならびに在宅患者の細菌感受性パターンに関する研究	感染制御部	城 有美
小児リハビリ実施施設に関わるアンケート調査	小児リハビリテーションチーム	今岡 圭
本院の輸血医療を第三者の視点から点検する	輸血部	兒玉 るみ
MRI プロテクター(電磁波遮断シート)を用いた電磁波遮断効果と患者安全性について	放射線部	宮原 善徳
e-learning を活用した研修実施後の学習効果測定の実施	医療安全管理部感染制御部	廣瀬 昌博
女性医師のキャリア形成とその満足度に与える要因についての研究	卒後臨床研修センター	長野 奈津子



お知らせ

島大病院ニュース 2019年7月



MRI装置(4台)本格稼働中 ～予約待ち時間も短縮しました～

放射線部 診療放射線技師長 みやはら よしのり
宮原 善徳

当院ではMRI装置4台{3.0T(テスラ):3台, 1.5T:1台}体制で検査業務を行っています。通常3T MRIは頭の血管や脳の画像が高分解能に撮影できると言われています。今回導入したMRIは腹部、骨盤部、乳腺、整形、心臓領域の分野を得意とした装置を導入致しました。これらの領域は空気と隣接する部分が多く3.0Tでは不得意と言われていた領域ですが新規MRIでは安定した画像を撮影できるようになっています。また新規装置は圧縮センシングという撮影時間を短縮できる新技術を搭載しているため、高分解能で短時間撮影ができ、患者さんの負担を軽減できる装置です。

1.5Tは患者さんの安全性や小児の撮影を鎮静なしで行える環境を想定した部屋の造りとなっています。チャイルド・ライフ・スペシャリストの資格をもった看護師と協力して、鎮静なしでのMRI検査対応に取り組んでおります。検査中にアニメやDVDが見れることはお子さんにも大変好評です。また、条件付きMRI対応ベースメーカーの患者さんも1.5Tで安全に対応できるように致しました。

なお、予約待ち時間も短縮し、頭部、腹部とも2週間程度となりました。当院のMRI検査は今まで以上に皆さんに良い環境を提供できるようになりましたので、今後ともよろしく願い致します。



2019年7月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



ご報告

島大病院ニュース 2019年7月



感染対策委員会について

感染対策委員会 委員長 ひろせ まさひろ
廣瀬 昌博

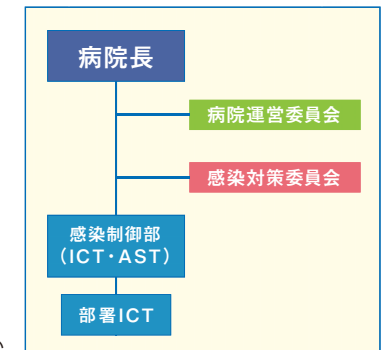
島根大学医学部附属病院では、病院長のもと、感染制御部のサポートで感染対策委員会を開いています。当院では感染対策委員会規則の第1条に島根大学医学部附属病院に院内感染等の防止及び予防対策を適切に行うため感染対策委員会を置き、病院の感染対策、感染予防などに関する方針を審議し、最終的に承認する機関です。

委員会は、毎月第3木曜日の17時から開催しています。病院長、副病院長(安全管理担当及び職場環境改善・看護の質管理担当)、内科系と外科系の診療科長または診療科副科長4人、検査部長、材料部長、薬剤部長、栄養士長、感染制御部副部長、感染対策専任者、事務部長、その他病院長が必要と認めた者が構成されます。

委員会では、前月の感染症発生報告をはじめとして、薬剤耐性菌感染症を含む感染症発生状況やサーベイランスデータ、抗菌薬適正使用支援チームの介入状況、ICT環境ラウンド結果、MRSA検出状況や院内伝播数、抗菌薬使用状況、血液体液曝露の報告と対応策、下部組織であるインフェクションコントロールチーム会議の内容などが報告されます。

また、感染対策委員会のもとで感染制御部が企画・運営する感染対策に関する研修会の開催などさまざまな活動をしています。

図:院内感染対策管理体制



ICT: Infection Control Team
AST: Antimicrobial Stewardship Team

審議内容は、次のとおりです。

1. 感染制御部の運営、業務の企画に関すること
2. 感染予防に関すること
3. 予防対策実施の指導に関すること
4. 感染予防の教育に関すること
5. 院内感染の原因調査、経過の追跡、整理及び分析等に関すること
6. その他感染対策に関すること

感染対策は、患者さんの安全、職員の安全を守るために幅広い対策が必要です。感染制御部の適切な機能発揮を監視するとともに、委員会での迅速な決議を心掛けています。



2019年7月発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2068 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





ご報告



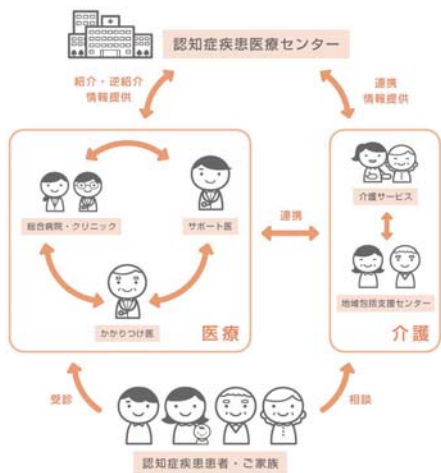
基幹型認知症疾患医療センターの取り組み

基幹型認知症疾患医療センター 副センター長 **ながはま みちはる** 長濱 道治

高齢化社会に伴い、認知症の患者数が増加の一途をたどっています。その中で、アルツハイマー型認知症は、認知症の基礎疾患としてもっとも多く、50~60%を占めていると言われています。医学が発展している現代においても、アルツハイマー型認知症の薬物治療は根本的なものではなく、対症療法として抗認知症薬が使用されているのが現状です。

認知症に対する治療・ケアは、多施設・多職種との連携が重要となります。多職種で知恵を持ち寄って、『あの手この手』で関わりを積み重ねていく努力が必要となります。

基幹型認知症疾患医療センターでは、早期に診断を行うための専門的な情報の提供や、治療方針に悩む場合の対応など、地域における認知症の保健医療や介護の水準の向上を図るために、以下の事業を行います。



① 認知症の確定診断

かかりつけ医からの紹介による「もの忘れ外来」を通じて、専門医または担当医が診察、認知機能検査、画像検査などを参考にして鑑別診断を行い、今後の治療・ケアの方針を説明いたします。

② 認知症についての最新情報の提供や助言

かかりつけ医や地域医療機関を対象として、認知症の最新の診断、治療に関する相談に応じ、最新の情報を提供します。一般向けの講演会なども積極的にを行い、情報・知識の普及に努めます。

③ 地域連携の推進

サポート医、地域包括支援センター、認知症の人と家族の会などと連携して、地域での認知症医療・介護の連携体制を推進します。そして研修会や講演会を通じて、地域保健・医療・介護の水準向上を目指します。

なお、7月15日(月・祝)に「令和元年度認知症地域医療連携会議」、8月25日(日)「令和元年度認知症研修会」を開催いたします。

詳細はHPをご覧ください。

ホームページ: <https://www.shimane-ninchi.jp/>



ご報告



褥瘡対策委員会の取り組み

(褥瘡有病率と発生率)について

褥瘡対策委員会 **かねこ さかえ** 金子 栄
もりた えいしん もりた 栄伸
森田 栄伸 森田 栄伸

島根県はご存知のとおり高齢化率の高い県であり、2009年までは35年連続全国一位でした。2010年以降は他県に一位の座は譲ったものの、高齢者が多いということは変わりありません。褥瘡は重症疾患で体動不能になり生じることが多いから、当院では褥瘡対策に力をいれております。島根県は高齢化対策先進県といわれており、当院の褥瘡対策に係る診療計画書の作成件数はここ5年で1.5倍に増加しているにもかかわらず、当院における褥瘡発生率や有病率は2014年をピークに減少傾向であります(図1~4)。当院では週1回の褥瘡回診を実施しており、これらは褥瘡回診に基づく当院のデータをお示しします。褥瘡対策は個人レベルでの関与はわずかですが、除圧環境の整備、正しいポジショニングの管理、適切な栄養、日々の処置とケアなどを総合的に行うことで発生を予防できます。

当院スタッフの努力により、褥瘡発生率、有病率ともに全国平均を下回っておりますが、院内発生率の割合は依然として50%を超えており、今後の対策上の重要な課題と考えています。これからの医療における大事なスキルの1つである褥瘡対策のため、院内勉強会も開催しておりますのでご希望の方は気軽にご参加ください。



図1 褥瘡回診にて認知した件数(MDRPUを含む)



図2 期間褥瘡有病率%
日本褥瘡学会編集の「褥瘡関連項目に関する指針」における算出式の褥瘡有病率
d1以上の総褥瘡患者数/年間実患者数



図3 期間褥瘡推定発生率%
国立大学病院長会議における病院機能指標と同様の定義による年間褥瘡発生率である
d2以上の院内発生褥瘡患者数/年間実患者数



図4 褥瘡院内発生率の年度推移





島大病院ニュース 2019年7月

ご報告

院内防災訓練 (院内ライフライン講習会)

よねはら まさたか
会計課施設管理室 室長 米原 昌隆

平成30年4月9日に発生した島根県西部地震では、大田市で最大震度5強、出雲市では震度5弱が観測されましたが、幸いにも島根大学出雲キャンパスの水、電気、医療ガス等(以降ライフライン)に影響はありませんでした。しかし、全国各地で発生している災害ではライフラインへの影響による被害が多数発生しています。

当院は災害拠点病院に指定されており、規模の大きい災害発生時には被災された患者さんを受け入れる体制を整えておく必要があります。令和元年5月23日(木)に行ったライフライン講習会ではそれらの設備及び非常食がどこにあるのか、また何日分確保されているのかを現地で確認しながら説明を行いました。当日は、医師、看護師、各医療技術職員、事務職員、合計21名の参加があり、普段立ち入ることのない病棟地下ピットの免震装置を廻り、建物内の揺れを軽減する構造を紹介し、有意義な講習会となりました。

今回の講習会は4回目となりますが、当院のライフラインについて教職員の理解を深めていくためには、これからも定期的に(年に1~2回程度)講習会を開催してまいりたいと思います。



ご報告
島大病院ニュース

2019年7月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2069 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>



島大病院ニュース 2019年7月

ご報告

4歳児の小指指尖部再接着術に成功しました

やまかわ しょう
形成外科 助教 山川 翔

近年、マイクロサージャリーのデバイスと技術の進歩により、かつては不可能と考えられていた末節部レベルでの指の切断に対しても再接着術を試み良好な結果を残す施設が増えてきています。

今回、幼児の小指爪レベルでの切断に対して、今年度より当院に導入した40倍の拡大性能を持つ顕微鏡を用いて、血管吻合を行い、無事完全生着させることができました。ご両親は大変喜んで退院となりました。

当科ではリンパ腫脹に対する外科的治療として、鬱滞したリンパ液を静脈へ流すことを目的としたリンパ管静脈吻合術を行っておりますが、実際に吻合を行っているリンパ管の径は0.3~0.5mm程度であり、通常のマイクロサージャリーとは異なりさらに繊細な器具を用いて行う特殊な技術であるため、スーパーマイクロサージャリーと呼ばれています。

成人の爪基部レベルの指動脈の径は0.5mm程度とされており、幼児の同部位での動脈径はさらに細いため、今回の結果はスーパーマイクロサージャリーのデバイスおよび技術による福音と言えます。

悪性腫瘍切除や高度外傷などで生じた組織欠損に対するマイクロサージャリーの技術を利用した組織再建は当診療科の強みと言えます。機能面、整容面でより満足のいく結果を患者さんにもたらすことができると考えますので、地域の先生方にはこれまでと同様な、ご指導とご支援を今後もいただければ幸いです。



ご報告
島大病院ニュース

2019年7月 発行
編集・発行 島根大学医学部附属病院「病院ニュース」編集委員会
問合せ先 島根大学医学部附属病院 医療サービス課 医療支援(地域医療)担当
TEL: 0853-20-2069 FAX: 0853-20-2063
◆島根大学医学部附属病院 ホームページ <http://www.med.shimane-u.ac.jp/hospital/>





お知らせ

前立腺癌の治し方

泌尿器科 診療科長 しいな ひろあき
椎名 浩昭

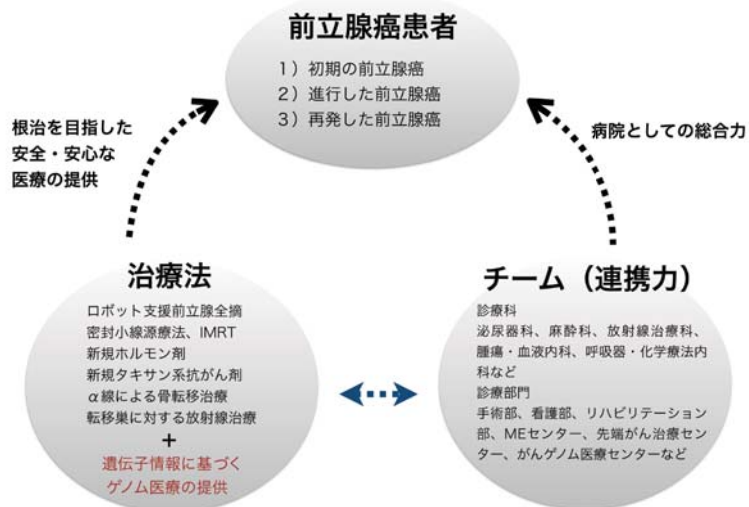
PSAスクリーニングや前立腺癌に対する社会認識の高まりに伴い、初期段階の前立腺癌が増加しています。初期の前立腺癌であれば、ロボット手術や放射線治療で完全に治すことができますが、進行した前立腺癌や初期治療後に再発した場合はどうでしょうか？

前立腺癌の男性ホルモン依存性は広く知られています。男性ホルモンを枯渇させる治療法が内分泌療法と呼ばれるものですが、最近ではもう少し掘り下げて男性ホルモンとその受容体との関係から治療を考えるようになってきました。一方、進行した場合には、新規タキサン系抗がん剤、骨転移のみにはα線による放射線治療、また場合によっては遺伝子情報に基づくゲノム医療を提供するなど、前立腺癌に対する治療法は大きく変わってきました。当科でもこれらの新しい治療法や治療概念を実践すべく、泌尿器科以外の診療科（麻酔科、放射線治療科、腫瘍・血液内科、呼吸器・化学療法内科など）や診療部門（手術部、看護部、MEセンター、先端がん治療センター、がんゲノム医療センターなど）の応援・協力を得て最新の泌尿器科医療を実践しています。

前立腺癌はチームで医療を行う時代に入っています。たとえ、進行した前立腺癌でも根治を目指して治療することが可能となってきました。初期の前立腺癌から、不幸にして進行した状態で発見された前立腺癌、あるいは再発した前立腺癌に対しても根治を目指してチームで医療する、それを実践するのが当院です。

お近くの方で、前立腺癌でお悩みの方がいらっしゃいましたら、是非とも私たち島根大学病院泌尿器科までご連絡ください。きっと満足で納得できる、安全で安心な医療を提供できるものと確信しております。

問合せ先 泌尿器科外来 TEL:0853-20-2387



お知らせ

献体について島根大学医学部よりのお知らせ

解剖学教授 おおたに ひろき ふじたに まさし
大谷 浩 / 藤谷 昌司

人体の構造をくわしく学ぶことは、医学生あるいは医師にとっても、もっとも必要なことです。そのためには、ご遺体を解剖して学ぶ以外に方法がありません。ご遺体はなにものにもかえることができない大変尊いものでありますが、「自分の遺体を使って勉強し、そして将来立派な医師になってください」と願って献体して下さる方々の「みこころ」にすぎなければ、医学教育はなりたちません。



その献体がいま、献体の篤志団体である「有終会」

の会員数の減少等により、島根大学医学部では、不足しがちになってきております。もし、上記の主旨をご理解頂き、亡くなったときに島根大学医学部に献体したいとお考えの方は、「有終会」へ入会頂ければありがたく存じます。ご興味を持たれた方は、お手数ですが、以下の番号にご連絡頂けたら、くわしく説明させていただきます。（おうかがいして説明も行います。）

どうぞよろしくお願いいたします。（責任者：解剖学教授 大谷 浩、藤谷 昌司）

問合せ先 島根大学医学部有終会事務局 TEL:0853-20-2585 受付：月曜日～金曜日（午前9時～午後5時）

